



支援教育とは気付くこと

野坂 鈴子

障害児学習教室YOU倶楽部 主催

特定非営利活動法人 You a Family Club 障害者・児 家庭自立支援 理事長

障害のある子ども達の塾「YOU倶楽部」が神戸市中央区に生まれて30周年、そして親の会を進化させたNPO法人「You a Family Club」がお陰様で20周年を迎えました。その間YOU倶楽部での“静”の教育とNPOでの“動”の教育を連動させ、知識と実体験を結び付ける支援を構築して参りました。経験を語彙獲得に変化させ、五感を使い認知教育を行う活動と連動させています。

なぜ障害のある子ども達には塾が無いのだろう?そんな些細な疑問が出発点でした。色々探しましたが見当たらず「じゃあ自分で作りましょう!」と思い立ち今に至ります。その間にご縁を頂戴したご家族の皆様、指導や支援を下された方々、関係者の皆様方にこの場をお借りし心からの感謝と御礼を申し上げます。

世の中の障害のある子ども達 しっかり焦点が合わない 曖昧な雰囲気です。連れられて動かされているような表情のお子様を多く見てきました。意味も解らず連れられるがままのご様子を醸し出しておられ、力も入れず身を任せて相手の意図によって動かされているといった状態です。それはご本人の幸せや楽しみとはほど遠いように感じました。せっかく生まれてきたのに勿体無い、どんなに症状が重たいお子様にも必ず意思はあります。その方が出来ることをすれば良い、ご本人自らのセンスと意思で物事を選択し日々を創り上げて欲しいと思いました。

全ての始まりは、『視点を変えよう!』と教えて下さったATAC、エイタックカンファレンスでした。東京大学先端科学技術研究センター特任教授東中邑賢隆先生と香川大学教育学部附属特別支援学校校長坂井聡先生(後ページにご寄稿を頂戴しております。)の教えは衝撃的でした。目から乳白色の大きなウロコがぼろぼろこぼれ落ちていく様が見えたのです。数年後にはスタッフ三名でACTCの壇上に立ち、大胆にも第一回目のキャンプ

『じぶんできめようキャンプ』の研究報告をさせて頂きました。緊張した懐かしい思い出です。

子ども達は何をどうすればよいのか、誰からも具体的な説明が貰えません。説明があっても意味がわからないのです。なのに回りの誰からも頑張れ頑張れと言われます。本人が理解出来ていないことをどうやって、何を頑張るのか?

意味や意図を知り、自らの力で取り組める。そのような教育の場を作ろうと思ひ立ちました。

障害の種別を問わず何歳からでも通える、卒業の無い個別対応の塾。ほんの少しの手助けで彼等の出来ることはたくさん増えます。お子さま方が様々な形で発信されたことをそのお子さんにわかるように返すだけ。支援教育は人間が生きる原点。何かを伝えられたらと始めた教室でしたが、反対に教えられることばかりでした。

一番大切にしていることはご本人が理解出来るように伝えること、その後にくる自己選択・自己決定、そしてNO・嫌だと言えること、見ること聞くこと、コミュニケーション、友達が作れること。そして支援や教育に一番大切なことは、様々な形態で彼等から発信されたサインに気付くこと。私達の気付き、子ども達の気付きが鍵なのです。関わりの全ての原点はここにあるのではないのでしょうか? NO・嫌だと言える、言って良いのだと知った時の子ども達のお顔が忘れられません。驚きで天と地がひっくり返ったようでした。

様々な物事を誉められては自己肯定感が上がり、段々と胸を張り自ら教室に入って来られます。姿勢が良くなると頭が上がり、自然と視線が合うようになられました。決して叱られる事なく、失敗することもなく、大丈夫なのだと感じたら、その芽は地面からスクスク芽を出し茎を伸ばし、左右様々な枝葉、色取りどりの花を教室いっぱい咲かせて下さり、会話が始まります。

お子様が褒められて自信が持て笑顔になられると保

護者様も笑顔になる。そうして段々皆様が胸を張られ姿勢がよくなるのを見て参りました。自己肯定感、相互作用とはこういう事と、身をもって学ばせて頂きました。

この子を見るのが得意なのだ。それが視覚支援という名称で、やることを箇条書きにすればわかりやすく達成しやすいのだ。そしてそれが応用行動分析ABAという名称で、後に支援したことが正解であることを知りました。

子ども達が気付く度に私も多くの気付きを貰うことが出来ました。頂いたものをバージョンアップさせて、それ以上にまたお返しするよう心掛けて参りました。楽しかった思い出ばかりです。あんなに小さかったあのお子様方がこれ程までのご成長を!こんな日が来るとは思わなかった!と私自身が驚きを隠せません。

毎回どのお子さんも皆 力の限りの一生懸命。一分一秒も無駄にせず、真剣に対象物を見て超真面目に取り組まれます。元来全員がお勉強が大好きな子どもたちばかり。“出来る為に”毎日こうやって神経をすり減らし必死で生きているのだなあ。そんな様子が愛おしくてどんどんのめり込みました。メリハリ、しっかり、ハッキリを心掛け取り組み、気がつけば30年が経とうとしています。保護者様方のご理解とご協力、二つのお力添え無くしては今日の日はありませんでした。これまで長きに渡る信頼を寄せて頂きましたことに心からお礼申し上げます。

貴方の為の意 YOU倶楽部。その後で立ち上げた親の会を転換させNPO法人へ。関わって下さるすべての方々に恵まれました。子ども達にはいつの日も元気を貰います。教室の明るい雰囲気はお子様方が醸し出す空気なのです。素直で一生懸命な子ども達と一緒にいると心が浄化されていくのが良くわかります。それぞれが虹色に輝く羽を背負って未来へ飛び立って欲しいと



野坂 悠

ボクはながいあいだじぶんのおもいやいけん、かんがえかた、かんじたことなどを一人でもおおくしてもらいたくて、つたえることをだいにかんがえてきました。けれどもいまはそれともたいせつだけど、人のおもいやかんがえをかんじとることもたいせつだともいいはじめました。



いつも願っております。

そして私事ではありますが、この世界に巡り合わせてくれた息子には心からの御礼と感謝を伝えます。貴方がいなければ知らない世界でした。生きるとは?頑張るとは?貫くとは?楽しむとは?人生の楽しみ喜びを教えて貰いました。そしてまだ小学生で寂しい年齢時に留守番ばかりさせた娘にも御礼を申しませう。二人の協力・忍耐があればこそこの30周年です。本当にありがとう。

ある時、目の前のお子さんが嬉しそうに笑われました。上手に出来て嬉しかったのでしょうか。この笑顔をもっと増やしたい。日々を笑顔で過ごしてほしい。あのお子さんには?このお子さんには?私の頭は四六時中子ども達の笑顔でいっぱいでした。子ども達との日々は私の生きる力となり、そんな日々を積み重ねて30年。あつという間の出来事です。そしてまだまだ支援の途中なのです。今後のお一人ずつの成功体験の為には何をすべきか?

目に見える事は支援すればすぐ出来てしまわれます。現在はお子様ご自身の力で生きていけるような、目には見えない力の獲得を目指して進んでいます。見えないことは生きていく上でとても大事なことです。けれど見えないことを教える事の難しさ。がしかし、いくつになっても学び知ることは楽しいですよ。これからも末長く彼等と共に歩んで参りたいと思っております。今日も明日も淡々と続けます。子ども達の1つでも多くの“わかったよ”の“笑顔”が増える為に!!

これまでの日々感謝しつつ、これからも初心を忘れずに御家族様、お子様方と心を合わせ手を取り合い、喜び、悲しみ、心の痛みにも寄り添いながら伴走出来ますよう務めてまいります。

YOU倶楽部ならびにNPO You a Family Club 障害者・児家庭自立支援に、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。